

ウィーン今昔

～～ 1970年代のウィーンと90年代のウィーン ～～

野村 三郎

大学の教師をしていた私が願いかなって奨学金を頂き留学できたのが70年。1シリング=17円。1ドル=360円。外貨持ち出し2000ドルまで。滞在ビザは日本のオーストリア大使館で保証人を立てて許可してもらおう、という時代でした。

専門が音楽社会学ですのでウィーン大学音楽学研究所のエーリッヒ・シェンク教授から招聘状を頂き滞在ビザをもらいました。オペラ演出にも興味があったためウィーン音大オペラ科のメッラー教授にもお願いしたところ、先生は即座に”Einverstanden”（了解）とサインを下さり、その結果、両方の大学で学ぶことができました。

一番世話になったのがウィーン・フィルのヒューブナー先生（事務局長、楽団長）で、先生の手配でウィーン・フィルの定期演奏会の切符は友人の分まで頂けるといふのんびりした時代でもありました。

当時、日本食の店は1軒もありませんでしたし、ケルトナー通りには車が走っており、夜ショーウィンドーの照明がとてもきれいに浮き出ていたのが珍しい田舎者でした。

音大での楽譜の借出しは20冊迄で、目いっぱい借りては連日ウィーン国立歌劇場の立見席（音大生のみ1シリング）に行くという生活でしたので、ザッハーもデーメルも知らないままに終わりました。

当時は生活をする上でも大使館で度々お世話になりました。日本の新聞を大使館で読ませて頂くことはもちろん、当初住所が決まっていなかった私は、日本からの手紙なども大使館気付けで送ってもらったり、国交のない国へのビザも領事さんが作って下さいました。そこで大学の友人を訪ね、ポーランドを回りアウシュヴィッツやチェコなど訪れ、初めて社会主義の実態に触れました。これはフランス、イタリアの友人を訪ねた明るい旅とは対照的な旅でした。

70年代のウィーンで印象に残ったシーンがあります。普段混まない電車が珍しく混んでいました。その中で中老の紳士が若い女性に「どうぞ！」と席を譲られたのです。混んだ電車の中で女性に席を譲るなどと言う行為は日本では考えられません。女性優先はヨーロッパの騎士道の伝統です。この光景を見てこれぞ真のKavallier（騎士=紳士）と感じ入ったものです。こういう騎士道精神はもう今では廃れてしまい、90年代には見られぬ光景と思っていたら、今度はこちらがカヴァリエを演ずる光栄に恵まれました。アルベルティーナの交差点を渡ったら、そこで老婦人が私を待ってい



1970年ウィーン大学構内にて

て腕を差し出されたのです。つまり私に危ない横断歩道をエスコートして、一緒に渡って欲しいと言うことなのです。私は喜んで腕を組みもう一度その老婦人と交差点を引き返しました。そういう昔からの騎士道精神を90年代でも信じている人が残っているということが、とても嬉しく感じられたものです。

私事になりますが、帰国後、教鞭をとる傍ら全国の地域オペラの先駆けとなった鹿児島オペラ協会を設立（第1回音楽の友賞受賞）、その後、来年30周年を迎える霧島国際音楽祭を創設しました。これらの仕事は日本の地域文化の在り方を常に考えてきた私にとって、研究と実践を結びつけるものでした。現在、これまでの研究成果を数冊の本にまとめ、音楽雑誌での評論活動を行っていますが、その基礎はウィーンでの留学で築いたと思います。

91年、大学から命じられ大学の研修所開設にウィーンに再び来ました。その時70年留学以来のつながりがどれだけ役に立ったか分かりません。驚いたのは電話が相変わらず1本の回線で4~6軒の家で利用している事で、その後、急速な携帯の普及で改善されたものの、当初日本との連絡を取るのにもひと苦労でした。再び住んでみると、走っている車は以前よりずっときれいになっているし、地下鉄が普及し、町中の専門店が減った代わりにスーパーが増え、各家庭に洗濯機、テレビがあるようになったし、と多くの点で変化が起きていました。昔はコインランドリーに行き、テレビは借りるものだったのです。日本人留学生の数も各段に増えました。

特にEU参加後のオーストリアの変わりようは驚くべきものがあります。物価が上がり、犯罪が増えました。しかし、かえってウィーンの地位はハプスブルク帝国時代のように中欧の中心地として上がってきています。美術館は日曜日は無料というのとはなくなりましたが、音楽、演劇等文化の豊かさ、研究資料の豊富さは変わりません。何よりゆったり流れるウィーンの間は何物にも代え難いものがあり、思わぬ長居をする結果となってしまっています。



1993年9月、日本人会のプールバッハでの「ワイン遠足」に参加

<野村 三郎>

元東邦音楽大学理事・教授。91—99 東邦ウィーンアカデミー責任者。現在音楽研究を継続し、著作と毎月音楽雑誌に執筆している。早稲田大学エクステンションセンター講師、昭和音大オペラ研究所研究員。